

令和7年度水戸市ヤングケアラー実態調査結果

1 調査の目的

- ・本市におけるヤングケアラーの実態を把握すること
- ・ヤングケアラーと思われる生徒を個別具体的な支援に繋げること（希望者のみ）
- ・自身の負担や不調、生活上の支障に対する自覚がない生徒にヤングケアラーについての気づきを与えること

2 調査対象

市立中学校及び市立義務教育学校（7学年から9学年）に通う生徒（6,051人（※））

※令和7年12月1日現在の市立中学校・義務教育学校の在籍者数

3 調査期間

令和7年12月10日（水）から令和7年12月24日（水）まで

4 調査方法

1人1台端末を活用し、生徒は学習eポータルに掲載された回答ページ（いばらき電子申請・届出サービス）のアドレスから回答

5 回答状況

調査対象数	有効回答数				回答率
	1年生	2年生	3年生	合計	
6,051	700	593	687	1,980	32.7%

6 調査結果（※小数点以下第2位の四捨五入のため、合計が100%にならない場合あり）

【1 あなたのことについて教えてください。】

(1) 学年

学年別での回答状況は以下のとおりとなっている。

(%)

調査数（n=1,980）	
中学1年生（義務教育学校7年生）（n=700）	35.4
中学2年生（義務教育学校8年生）（n=593）	29.9
中学3年生（義務教育学校9年生）（n=687）	34.7

(2) 性別

回答者の性別については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
男性 (n=957)	48.3
女性 (n=985)	49.7
答えたくない (n=38)	1.9

(3) 今、一緒（いっしょ）に住んでいる家族（複数回答）

今、一緒に住んでいる家族については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
母親 (n=1,932)	97.6
父親 (n=1,682)	84.9
祖母 (n=255)	12.9
祖父 (n=170)	8.6
兄 (n=510)	25.8
姉 (n=474)	23.9
弟 (n=531)	26.8
妹 (n=546)	27.6
その他 (n=112)	5.7

(4) 健康状態

健康状態については、「よい」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
よい (n=1,142)	57.7
どちらかといえばよい (n=396)	20.0
ふつう (n=360)	18.2
どちらかといえばよくない (n=75)	3.8
よくない (n=7)	0.4

【2 あなたの普段（ふだん）の生活について教えてください。】

(1) 学校を欠席することがあるか。

学校の出席状況については、「ほとんど欠席しない」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
ほとんど欠席しない (n=1,634)	82.5
たまに欠席する (n=314)	15.9
よく欠席する (n=32)	1.6

(2) 学校に遅刻したり早退したりすることがあるか。

学校に遅刻したり早退したりすることがあるかについては、「ほとんどしない」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
ほとんどしない (n=1,690)	85.4
たまにする (n=236)	11.9
よくする (n=54)	2.7

(3) 部活動や塾、習いごと、クラブ活動などを行っているか。

部活動や塾、習いごと、クラブ活動などを行っているかについては、「している」の割合が8割を超えている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
している (n=1,751)	88.4
していない (n=229)	11.6

(4) 普段（ふだん）の学校生活等において、当てはまるもの（複数回答）

普段の学校生活等であてはまることについては、「当てはまるものは特にない」の割合が最も高くなっており、次いで「提出物を出すのが遅くなることが多い」の割合が29.6%と高くなっている。

(%)

調査数（n=1,980）	
授業中に居眠りすることがある（n=380）	19.2
宿題や課題ができていないことが多い（n=461）	23.3
忘れ物が多い（n=456）	23.0
部活動や習い事を休むことが多い（n=76）	3.8
提出物を出すのが遅くなることが多い（n=586）	29.6
修学旅行などの宿泊行事を欠席する（n=6）	0.3
保健室で過ごすことが多い（n=21）	1.1
学校では1人で過ごすことが多い（n=94）	4.7
友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない （n=89）	4.5
当てはまるものは特にない（n=981）	49.5

(5) 今、悩んだり困っていたりすることがあるか。（複数回答）

今、悩んだり困っていたりすることがあるかについては、「悩みや困っていることは特にない」の割合が55.7%と最も高くなっており、次いで「学校の成績のこと」、「進路のこと」の順となっている。

(%)

調査数（n=1,980）	
友だちとの関係のこと（n=226）	11.4
学校の成績のこと（n=546）	27.6
進路のこと（n=457）	23.1
部活動やクラブ活動のこと（n=135）	6.8
学校生活にかかるお金のこと（n=43）	2.2
塾や習い事のこと（n=106）	5.4
家庭の経済的なこと（n=71）	3.6
自分と家族との関係のこと（n=85）	4.3
自分以外の家族内の人間関係のこと（n=49）	2.5
自分のために使える時間が少ないこと（n=54）	2.7
病気や障がいのある家族のこと（n=15）	0.8
その他（n=27）	1.4
悩みや困っていることは特にない（n=1,102）	55.7

(6) 悩みや困りごとについて相談できる人がいるかどうか

(2の(5)の質問で悩んだり困っていたりすることがあると回答した人のみ回答)

今、悩んだり困っていたりすることがあると回答した人に、悩みや困りごとについて相談できる人がいるかどうかについて聞いたところ、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が最も高くなっているが、一方で2割程度が「相談や話はしたくない」と回答している。

(%)

調査数 (n=878)	
相談相手や話を聞いてくれる人がいる (n=662)	75.4
相談相手や話を聞いてくれる人はいない (n=35)	4.0
相談や話はしたくない (n=181)	20.6

【3 家族の中にあなたがお世話をしている人がいるかどうか教えてください。】

(1) 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、9.1%が「いる」と回答しており、国や県の同様の調査で「いる」と回答した割合よりも高くなっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
いる (n=180)	9.1
いない (n=1,800)	90.9
※いる (R2 国調査)	(5.7)
※いる (R4 県調査)	(4.5)

※R2 国調査は中学2年生のみ対象

※R4 県調査は中学生全数が対象

(2) 世話をしている家族（複数回答）

世話をしている家族については、「きょうだい」の割合が最も多く、次いで、「母親」が高くなっている。なお、その他の内訳としては、「犬」や「猫」が多数を占めている。

(%)

調査数 (n=180)	
母親 (n=19)	10.6
父親 (n=9)	5.0
祖母 (n=7)	3.9
祖父 (n=5)	2.8
きょうだい (n=81)	45.0
その他 (n=10)	5.6
無回答 (n=72)	40.0

(3) 世話をしている母親の状況（複数回答）

世話をしている母親の状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=19)	
高齢（65 歳以上）(n=2)	10.5
介護が必要 (n=1)	5.3
認知症（にんちしょう）(n=1)	5.3
身体障がい (n=2)	10.5
知的障がい (n=1)	5.3
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=2)	10.5
依存症（いぞんしょう） （お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている）※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気 (n=1)	5.3
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=14)	73.7

(4) 母親への世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「母親」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」の割合が最も高く、次いで、「外出の付き添い」が高くなっている。

(%)

調査数 (n=19)	
家事（食事の準備や掃除、洗濯、買い物など）(n=18)	94.7
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=3)	15.8
身体的な介護（入浴やトイレのお手伝いなど）(n=0)	0.0
外出の付き添い（買い物、散歩などに一緒に行く）(n=9)	47.4
通院の付き添い（病院に一緒に行く）(n=1)	5.3
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）(n=2)	10.5
見守り (n=5)	26.3
通訳（日本語や手話など）(n=1)	5.3
お金の管理 (n=2)	10.5
お薬の管理 (n=1)	5.3
その他 (n=1)	5.3
無回答 (n=0)	0.0

(5) 世話をしている父親の状況（複数回答）

世話をしている父親の状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=9)	
高齢（65 歳以上）(n=1)	11.1
介護が必要 (n=1)	11.1
認知症（にんちしょう）(n=0)	0.0
身体障がい (n=1)	11.1
知的障がい (n=1)	11.1
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
依存症（いぞんしょう） （お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている）※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気 (n=1)	11.1
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=6)	66.7

(6) 父親への世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「父親」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」の割合が最も高く、次いで、「見守り」が高くなっている。

(%)

調査数 (n=9)	
家事（食事の準備や掃除、洗濯、買い物など）(n=8)	88.9
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=1)	11.1
身体的な介護（入浴やトイレのお手伝いなど）(n=0)	0.0
外出の付き添い（買い物、散歩などに一緒に行く）(n=2)	22.2
通院の付き添い（病院に一緒に行く）(n=0)	0.0
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）(n=0)	0.0
見守り (n=3)	33.3
通訳（日本語や手話など）(n=0)	0.0
お金の管理 (n=2)	22.2
お薬の管理 (n=0)	0.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=0)	0.0

(7) 世話をしている祖母の状況（複数回答）

世話をしている祖母の状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=7)	
高齢（65 歳以上）(n=6)	85.7
介護が必要 (n=2)	28.6
認知症（にんちしょう）(n=0)	0.0
身体障がい (n=1)	14.3
知的障がい (n=0)	0.0
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
依存症（いぞんしょう） （お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている）※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気 (n=0)	0.0
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=1)	14.3

(8) 祖母への世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「祖母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=7)	
家事（食事の準備や掃除、洗濯、買い物など）(n=5)	71.4
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=0)	0.0
身体的な介護（入浴やトイレのお手伝いなど）(n=1)	14.3
外出の付き添い（買い物、散歩などに一緒に行く）(n=1)	14.3
通院の付き添い（病院に一緒に行く）(n=0)	0.0
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）(n=0)	0.0
見守り (n=1)	14.3
通訳（日本語や手話など）(n=0)	0.0
お金の管理 (n=0)	0.0
お薬の管理 (n=0)	0.0
その他 (n=1)	14.3
無回答 (n=0)	0.0

(9) 世話をしている祖父の状況（複数回答）

世話をしている祖父の状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=5)	
高齢（65 歳以上）(n=3)	60.0
介護が必要 (n=0)	0.0
認知症（にんちしょう）(n=0)	0.0
身体障がい (n=0)	0.0
知的障がい (n=0)	0.0
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
依存症（いぞんしょう） （お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている）※そうかもしれない場合も含む (n=1)	20.0
こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気 (n=0)	0.0
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=1)	20.0

(10) 祖父への世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「祖父」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」と「外出の付き添い」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=5)	
家事（食事の準備や掃除、洗濯、買い物など）(n=2)	40.0
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=0)	0.0
身体的な介護（入浴やトイレのお手伝いなど）(n=0)	0.0
外出の付き添い（買い物、散歩などに一緒に行く）(n=2)	40.0
通院の付き添い（病院に一緒に行く）(n=0)	0.0
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）(n=1)	20.0
見守り (n=0)	0.0
通訳（日本語や手話など）(n=0)	0.0
お金の管理 (n=0)	0.0
お薬の管理 (n=1)	20.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=0)	0.0

(11) 世話をしているきょうだいの状況（複数回答）

世話をしているきょうだいの状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=81)	
若い (小さいため) (n=65)	80.2
介護が必要 (n=0)	0.0
認知症 (にんちしょう) (n=0)	0.0
身体障がい (n=0)	0.0
知的障がい (n=3)	3.7
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
依存症 (いぞんしょう) (お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている) ※そうかもしれない場合も含む (n=2)	2.5
こころの病気、依存症 (いぞんしょう) 以外の病気 (n=1)	1.2
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=10)	12.3

(12) きょうだいへの世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「きょうだい」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「見守り」の割合が最も高く、次いで、「家事」、「外出の付き添い」の順に高くなっている。

(%)

調査数 (n=81)	
家事 (食事の準備や掃除、洗濯、買い物など) (n=41)	50.6
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=15)	18.5
身体的な介護 (入浴やトイレのお手伝いなど) (n=13)	16.0
外出の付き添い (買い物、散歩などに一緒に行く) (n=22)	27.2
通院の付き添い (病院に一緒に行く) (n=0)	0.0
感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど) (n=16)	19.8
見守り (n=47)	58.0
通訳 (日本語や手話など) (n=1)	1.2
お金の管理 (n=0)	0.0
お薬の管理 (n=0)	0.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=0)	0.0

(13) 世話をしているその他の人の状況（複数回答）

世話をしているその他の状況については、以下のとおりとなっている。

(%)

調査数 (n=10)	
高齢（65 歳以上）(n=0)	0.0
介護が必要 (n=0)	0.0
認知症（にんちしょう）(n=0)	0.0
身体障がい (n=0)	0.0
知的障がい (n=0)	0.0
こころの病気 ※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
依存症（いぞんしょう） （お酒やギャンブル、ゲームなどをやめられず、生活に 問題を抱えている）※そうかもしれない場合も含む (n=0)	0.0
こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気 (n=1)	10.0
日本語が苦手 (n=0)	0.0
その他 (n=9)	90.0

(14) その他の人への世話の内容（複数回答）

世話を必要としている家族について、「その他」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」の割合が最も高く、次いで、「見守り」が高くなっている。

(%)

調査数 (n=10)	
家事（食事の準備や掃除、洗濯、買い物など）(n=5)	50.0
きょうだいのお世話や保育所などへの送り迎え (n=0)	0.0
身体的な介護（入浴やトイレのお手伝いなど）(n=1)	10.0
外出の付き添い（買い物、散歩などに一緒に行く）(n=0)	0.0
通院の付き添い（病院に一緒に行く）(n=0)	0.0
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）(n=0)	0.0
見守り (n=3)	30.0
通訳（日本語や手話など）(n=0)	0.0
お金の管理 (n=0)	0.0
お薬の管理 (n=1)	10.0
その他 (n=3)	30.0
無回答 (n=0)	0.0

(15) 世話は誰と一緒にしているか（複数回答）

世話を一緒にしている人については、「母親」の割合が最も高くなっているが、一方で 7.8%が「自分のみ」と回答している。

(%)

調査数（n=180）	
母親（n=65）	36.1
父親（n=45）	25.0
祖母（n=7）	3.9
祖父（n=6）	3.3
きょうだい（n=37）	20.6
親戚の人（n=3）	1.7
自分のみ（n=14）	7.8
福祉サービス（n=1）	0.6
その他（n=4）	2.2
無回答（n=91）	50.6

(16) 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、「小学生（高学年）から」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数（n=180）	
就学前（n=14）	7.8
小学生（低学年）（n=15）	8.3
小学生（高学年）（n=47）	26.1
中学生以降（n=14）	7.8
無回答（n=90）	50.0

(17) 世話の頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数（n=180）	
ほぼ毎日（n=46）	25.6
週に3～5日（n=28）	15.6
週に1～2日（n=16）	8.9
1か月に数日（n=9）	5.0
その他（n=3）	1.6
無回答（n=78）	43.3

(18) 平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、「3時間未満」の割合が最も高くなっているが、一方で15.0%が3時間以上を世話に費やしていると回答している。

(%)

調査数 (n=180)	
3時間未満 (n=78)	43.3
3～7時間未満 (n=25)	13.9
7時間以上 (n=2)	1.1
無回答 (n=75)	41.7

(19) 世話のために、本当はやりたいけどできていないこと（複数回答）

世話のために、本当はやりたいけどできていないことについては、「特にない」の割合が最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が高くなっている。

(%)

調査数 (n=180)	
学校に行きたくても行けない (n=0)	0.0
登校時間に登校できない、下校時間まで学校にいられない (n=0)	0.0
宿題をする時間や勉強をする時間が取れない (n=7)	3.9
睡眠が十分に取れない (n=7)	3.9
友だちと遊ぶことができない (n=5)	2.8
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった (n=4)	2.2
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した (n=1)	0.6
自分の時間が取れない (n=13)	7.2
その他 (n=0)	0.0
特にない (n=83)	46.1
無回答 (n=75)	41.7

(20) 世話をすることについて感じていること（複数回答）

世話をすることについて感じていることは、「特に大変さは感じていない」の割合が最も高く、次いで「面倒くさい」が高くなっている。

(%)

調査数（n=180）	
身体的につらい（n=5）	2.8
精神的につらい（n=9）	5.0
時間的余裕がない（n=6）	3.3
面倒くさい（n=21）	11.7
本当はやりたくない（n=9）	5.0
どうしていいかわからない（n=3）	1.7
その他（n=3）	1.7
特に大変さは感じていない（n=79）	43.9
無回答（n=75）	41.7

(21) 世話について相談した経験

世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを誰かに相談したことがあるかについては「ない」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数（n=180）	
ある（n=14）	7.8
ない（n=96）	53.3
無回答（n=70）	38.9

(22) 誰に相談したか（複数回答）

世話についての相談をした経験が「ある」と回答した人に、誰に相談したかについて聞いたところ、「家族」、「友だち」の割合がそれぞれ6割程度と最も高く、次いで「学校の先生（保健室の先生以外）」、「保健室の先生」の順に高くなっている。

(%)

調査数 (n=14)	
家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）(n=8)	57.1
親戚（おじ、おばなど）(n=1)	7.1
友だち (n=8)	57.1
学校の先生（保健室の先生以外）(n=3)	21.4
保健室の先生 (n=2)	14.3
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー (n=1)	7.1
医師や看護師、その他病院の人 (n=0)	0.0
ヘルパーやケアマネジャー、その他福祉サービスの人 (n=0)	0.0
市役所や保健所の人 (n=0)	0.0
近所の人 (n=0)	0.0
SNSで知り合った人 (n=0)	0.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=1)	7.1

(23) 相談していない理由（複数回答）

世話についての相談をした経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が6割程度と最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」が高くなっている。

(%)

調査数 (n=96)	
誰かに相談するほどの悩みではない (n=58)	60.4
家族以外の人に相談するような悩みではない (n=4)	4.2
誰に相談するのがよいかわからない (n=2)	2.1
相談できる人が身近にいない (n=1)	1.0
家族のことのため話しにくい (n=3)	3.1
家族のことを知られたくない (n=6)	6.3
家族に対して偏見を持たれたくない（悪く思われたくない） (n=0)	0.0
相談しても状況が変わるとは思わない (n=11)	11.5
その他 (n=10)	10.4
無回答 (n=16)	16.7

(24) 学校や大人に助けてほしいこと、必要としている支援（複数回答）

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「特にない」の割合が5割を超えており、次いで、「わからない」、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の順となっている。

(%)

調査数（n=180）	
自分のいまの状況について話を聞いてほしい（n=9）	5.0
家族のお世話について相談にのってほしい（n=0）	0.0
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい（n=1）	0.6
自分が行っているお世話の全てを変わってくれる人やサービスがほしい（n=2）	1.1
自分が行っているお世話の一部を変わってくれる人やサービスがほしい（n=0）	0.0
自由に使える時間がほしい（n=9）	5.0
進路や就職など将来の相談にのってほしい（n=9）	5.0
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい（n=8）	4.4
家庭への経済的な支援（お金の面で支援）をしてほしい（n=2）	1.1
わからない（n=14）	7.8
その他（n=1）	0.6
特にない（n=92）	51.1
無回答（n=52）	28.9

(25) 自身の悩みについて市に相談したいと思うか

自身の悩みについて市に相談したいと思うかについては、「相談したくない」の割合が9割以上となっているが、2.2%が「相談してもよい」と回答している。

(%)

調査数（n=180）	
相談してもよい（n=4）	2.2
相談したくない（n=176）	97.8

【4 ヤングケアラーについて】

(1) 自身がヤングケアラーに当てはまると思うかどうか

自身がヤングケアラーに当てはまると思うかどうかについては、「当てはまらない」の割合が最も高く、次いで「わからない」となっている。

(%)

調査数 (n=1,980)	
当てはまる (n=17)	0.9
当てはまらない (n=1,631)	82.4
わからない (n=332)	16.8

(2) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはない」の割合が5割程度と最も高くなっている一方、国や県の同様の調査と比較すると、その割合は低くなっている。特に、令和2年度の国の調査時点と比べると、ヤングケアラーの認知度は高くなっているものと推定される。

(%)

調査数 (n=1,980)		R2 国調査	R4 県調査
聞いたことがあり、内容も知っている (n=486)	24.5	(6.3)	(21.9)
聞いたことはあるが、内容はよくわからない (n=434)	21.9	(8.8)	(19.0)
聞いたことはない (n=1,060)	53.5	(84.2)	(58.6)

※国調査及び県調査については、未回答者あり。

(3) 「ヤングケアラー」という言葉をどのように知ったか（複数回答）

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがある」と回答した人に、「ヤングケアラー」という言葉をどのように知ったかを聞いたところ、「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高く、次いで「SNSやインターネット」、「学校」が高くなっている。

(%)

調査数（n=920）	
テレビや新聞、ラジオ（n=411）	44.7
雑誌や本（n=81）	8.8
SNSやインターネット（n=327）	35.5
広報やチラシ、ポスターなどの掲示物（n=149）	16.2
イベントや交流会など（n=9）	1.0
学校（n=277）	30.1
友だちや知り合いから聞いた（n=29）	3.2
今回と同じようなアンケート調査（n=95）	10.3
その他（n=34）	3.7
無回答（n=15）	1.6

(4) 自由記述（ヤングケアラー支援についての意見や要望、感想など）

【ヤングケアラー支援についての意見・要望等（主なものを記載）】

- ・このようにこれからも進めるといいと思う。
- ・苦しんでいる人もいると思うのでこの支援は、続けたほうがいいと思う。
- ・この活動はとてもいいと思います。（同様の回答が1件）
- ・こんな事する時間無駄だから廃止して。
- ・子供一人だと心細いため、大人の誰かが手伝いに来たほうがいいと思う。
- ・親の介護についてよく思っているならそれでいいと思うけど、嫌でやっているなら周りの手を借りたり、支援してもらってもいいと思った。
- ・若いうちから大人のお世話をするヤングケアラーは、正直かわいそうだと思う。勉強面でも、お金の面でも、精神的にも辛いと思う。なにか支援が必要だと思う。
- ・私はヤングケアラーという言葉を知らなかったけど今回知って、ヤングケアラーの人は精神がきついと思うので、ヤングケアラー支援はいい考えだと思います。
- ・支援、頑張ってください！
- ・ぜひ助けていただきたい。
- ・ヤングケアラー支援は、とても良いことだと思います。これからも続けることができれば、きっと他の人も負担が減ると思います。
- ・ヤングケアラーの人にお金を寄付してあげてください。
- ・自分たちと同年代くらいの人が自分の時間を削って介護をしているという事実に驚いた。介護や福祉に興味があるのでボランティアなどで協力できるならしてみたいと思った。
- ・ヤングケアラー支援をもっと充実させることが大切だと思った。
- ・できることがあるなら率先して参加したい。
- ・ヤングケアラーと一緒に遊ぶ機会を設けたい。（ボール遊びでも、なんでも）
- ・ヤングケアラーを支援したい。
- ・ヤングケアラーのことを、「自分の時間をなくしてまで家族の面倒をみてえらい」などと美化せずに「これは大人がなんとかするべき問題だ」と思うことが大切だ。
- ・もし困っている人がいるなら、学生時代を楽しめるように支援をたくさんしてほしいと思いました。
- ・このことに限らず、全員がしっかりとした教育を必ず受けられるようになることを望みます。
- ・県や国が支援したほうが良いと思う。
- ・なくなってほしいけど、子供じゃなくて親を変えたほうがいいと思う。
- ・ヤングケアラーはお世話や介護などを日常的にこどもが行ってしまっていることで、家庭や家族の人を支援してあげることが大切だと知った。
- ・自分ではないですが、当てはまるひとはできればクラスや習い事の先生などの人にヤングケアラーだと知ってもらって、心がけのようなものをしてもらいたい。
- ・ヤングケアラーの人たちにも心の置き場所があるといいのかなと考えた。

【感想等（ヤングケアラーや本調査に関するもののうち主なものを記載）】

- ・質問の意味がわかりやすくて良かったです。
- ・ヤングケアラーについてよく知ることができました。（同様の回答が4件）
- ・ヤングケアラーのことについてこのアンケートで少しでも知れたと思います。ありがとうございました。
- ・ヤングケアラーとは毎日お世話をするということがわかった。
- ・ヤングケアラーについて、内容はあまり知らなかったのでそういう子がいるということは認識しておきたいと思います。
- ・ヤングケアラーという言葉を知ってこういうことなんだなと初めて知った。
- ・ヤングケアラーという言葉を知って、そういう若者もいるんだなと感じることができた。
- ・自分と同年齢の人でも介護などを行っている人がいるということを知ることができた。
- ・同じくらいの年齢でも、ヤングケアラーがいることに驚きました。
- ・ヤングケアラーによって友達と遊べない人もいるんだなと感じた。
- ・ヤングケアラーの方がもっと自分のために時間を使ってほしい。
- ・そんなのがあるんだなって思った。
- ・大変だなって思いました。（同様の回答が2件）
- ・頑張ってもらいたい。（同様の回答が1件）
- ・お世話をするのは良いことだけどやり過ぎも良くない。
- ・可愛そうだなと思った。
- ・こういう子が周りにもいると考えると不安。
- ・家族を支えたい。
- ・家族みんなで協力すると良くなると思う。
- ・とても偉い人たちだと思った。
- ・誇らしいものなんだなと思った。
- ・頑張っていていいと思う。
- ・若者や子供が大人の面倒を見るのは大変なのにすごいと思った。
- ・子供なのに家事などを自分で全部するのはすごいと思った。
- ・どこからがヤングケアラーなのかわかんない。
- ・ヤングケアラーがあまり良くわからない。
- ・猫も入りますか？

7 考察

【1 ヤングケアラーである可能性の高い生徒の推定】

(1) 本調査におけるヤングケアラーの推定方法

子ども・若者育成支援推進法では、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」をヤングケアラーとして明記している。

また、ヤングケアラーの定義中の「過度に」とは、こどもにおいては「家族の介護その他の日常生活上の世話」を行うことにより、こどもとしての健やかな成長・発達に必要な時間（遊び・勉強等）を奪われたり、ケアに伴い身体的・精神的負荷がかかったりすることによって、負担が重い状態になっている場合を指すものとしている。

以上のことから、本調査においては次の2つの条件を満たす者をヤングケアラーである可能性の高い生徒として推定する。

なお、世話の日常性（世話の頻度や世話に費やす時間）については、世話をする事により、現に日常生活に何かしらの支障が生じているこどもを広く支援対象として推定したいことから、今回の条件には含めないこととする。

- ① 世話をしている家族が「いる」こと
- ② 世話のために、本当はやりたいけど「できていないことがある」こと、または世話をする事について「つらさを感じている」こと

(2) ヤングケアラーである可能性の高い生徒

本調査の結果、全回答者 1,980 人のうち 180 人が世話をしている家族が「いる」と回答し、世話のために「できていないことがある」または世話をする事に「つらさを感じている」と回答のあったものについて絞り込んだ結果、31 人（回答者全体の 1.6%）がヤングケアラーである可能性が高い生徒と推計された。

（人）

①世話をしている 家族がいる	②できていないこ とがあるか	②つらさを感じて いるか	ヤングケアラーの 可能性が高い生徒
180 (n=1,980)	ある	感じて いる	16
		感じて いない	6
	ない (※)	感じて いる	9
		感じて いない (※)	149
			31 人 (全体の 1.6%) (63 人に 1 人)

※無回答を含む。

【2 ヤングケアラーである可能性の高い生徒の回答状況（抜粋）】

(1) 世話をしている家族（複数回答）

世話をしている家族については、「きょうだい」の割合が9割程度を占めている。

(%)

調査数 (n=31)	
母親 (n=10)	32.3
父親 (n=5)	16.1
祖母 (n=0)	0.0
祖父 (n=0)	0.0
きょうだい (n=28)	90.3
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=0)	0.0

(2) 世話は誰と一緒にしているか（複数回答）

世話を一緒にしている人については、「母親」や「父親」、「きょうだい」の割合が高くなっている一方、2割程度が「自分のみ」と回答している。

(%)

調査数 (n=31)	
母親 (n=17)	54.8
父親 (n=13)	41.9
祖母 (n=2)	6.5
祖父 (n=1)	3.2
きょうだい (n=14)	45.2
親戚の人 (n=0)	0.0
自分のみ (n=5)	16.1
福祉サービス (n=0)	0.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=6)	19.4

(3) 世話について相談した経験

世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを誰かに相談したことがあるかについては、7割程度が「ない」と回答している。

(%)

調査数 (n=31)	
ある (n=10)	32.3
ない (n=21)	67.7
無回答 (n=0)	0.0

(4) 相談していない理由（複数回答）

世話についての相談をした経験が「ない」と回答した人が相談していない理由については、「誰かに相談するほどの悩みではない」が6割程度と最も高く、次いで「相談しても状況が変わると思わない」の割合が高くなっている。

(%)

調査数 (n=21)	
誰かに相談するほどの悩みではない (n=13)	61.9
家族以外の人に相談するような悩みではない (n=2)	9.5
誰に相談するのがよいかわからない (n=1)	4.8
相談できる人が身近にいない (n=1)	4.8
家族のことのため話しにくい (n=1)	4.8
家族のことを知られたくない (n=2)	9.5
家族に対して偏見を持たれたくない（悪く思われたくない） (n=0)	0.0
相談しても状況が変わると思わない (n=6)	28.6
その他 (n=1)	4.8
無回答 (n=2)	9.5

(5) 学校や大人に助けてほしいこと、必要としている支援（複数回答）

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、5割程度が「特にない」と回答する一方、2割程度が「自由に使える時間がほしい」、次いで1割程度が「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」と回答するなど何らかの支援を求める回答も複数見られた。

(%)

調査数 (n=31)	
自分のいまの状況について話を聞いてほしい (n=4)	12.9
家族のお世話について相談にのってほしい (n=0)	0.0
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい (n=0)	0.0
自分が行っているお世話の全てを変わってくれる人やサービスがほしい (n=2)	6.5
自分が行っているお世話の一部を変わってくれる人やサービスがほしい (n=0)	0.0
自由に使える時間がほしい (n=6)	19.4
進路や就職など将来の相談にのってほしい (n=3)	9.7
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい (n=3)	9.7
家庭への経済的な支援（お金の面で支援）をしてほしい (n=2)	6.5
わからない (n=5)	16.1
その他 (n=0)	0.0
特にない (n=15)	48.4
無回答 (n=0)	0.0

(6) 自身がヤングケアラーに当てはまると思うかどうか

自身がヤングケアラーに当てはまると思うかどうかについては、「当てはまる」と回答した割合は1割程度となっており、「当てはまらない」が4割程度、「わからない」が5割程度となっている。

(%)

調査数 (n=31)	
当てはまる (n=3)	9.7
当てはまらない (n=13)	41.9
わからない (n=15)	48.4

(7) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはない」の割合が5割程度と最も高くなっている一方、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合は2割程度となっている。

(%)

調査数 (n=31)	
聞いたことがあり、内容も知っている (n=6)	19.4
聞いたことはあるが、内容はよくわからない (n=9)	29.0
聞いたことはない (n=16)	51.6

(8) 「ヤングケアラー」という言葉をどのように知ったか（複数回答）

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがある」と回答した人が、「ヤングケアラー」という言葉をどのように知ったかについては、「今回と同じようなアンケート調査」の割合が最も高くなっている。

(%)

調査数 (n=15)	
テレビや新聞、ラジオ (n=3)	20.0
雑誌や本 (n=1)	6.7
SNSやインターネット (n=4)	26.7
広報やチラシ、ポスターなどの掲示物 (n=4)	26.7
イベントや交流会など (n=0)	0.0
学校 (n=4)	26.7
友だちや知り合いから聞いた (n=0)	0.0
今回と同じようなアンケート調査 (n=6)	40.0
その他 (n=0)	0.0
無回答 (n=0)	0.0

【3 今後の支援の方向性について】

(1) ヤングケアラーの周知・発見について

本調査の結果、ヤングケアラーの認知度について、5割程度が「聞いたことはない」と回答していることから、引き続き啓発物等を利用しながら、こどもに向けた周知を継続することが必要である。また、「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがある」と回答した人については、「今回と同じようなアンケート調査」で知ったと回答している割合も一定程度見られたことから、本調査の継続的な実施によりヤングケアラーの認知度を更に高めることができるものと期待できる。

あわせて、こどもに接する立場にある大人やこどもに接する機会の多い大人向けの研修会の開催や啓発物の配布等を継続することで、ヤングケアラーの早期発見に繋げていく。

(2) こども自身が相談しやすい環境の整備

ヤングケアラーである可能性の高い生徒のうち、7割程度が世話について相談したことは「ない」と回答し、その理由は「誰かに相談するほどの悩みではない」が多くを占めていた。一方で、学校や大人に助けてほしいこと、必要としている支援については、1割程度が「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」と回答していた。

このような生徒に対応するため、また、今回の調査で市に相談を希望しなかった生徒でも、何かのきっかけで相談を希望することが想定されるため、こども自身がいつでも相談できるオンライン相談窓口を開設することとし、令和8年1月から運用を開始したところである。

引き続き、こどもたちに向けてオンライン相談窓口の周知を継続するとともに、相談に至ったケースについては、必要に応じて関係機関とも緊密に連携し、そのヤングケアラーが抱えている悩みや希望する支援等を丁寧に聞き取り、少しでもその負担を軽減できるよう寄り添いながら対応していく。

(3) ヤングケアラーの実態調査

本調査の自由意見の中で、「今回のアンケート調査を通してヤングケアラーについて理解することができた」等の意見や「自分自身もヤングケアラー支援に携わりたい」といった意見が複数見られた。実態調査の実施によって、ヤングケアラーについての理解促進や回答者自身もヤングケアラーなのかもしれない、という気付きを促す効果も期待できることから、今後も、調査対象年齢の拡大等を検討しながら、定期的に実態調査を実施することとしたい。

また、今後の実態調査の実施に当たっては、回答するこどもたちの負担を軽減するために、設問数を減らしたり、より回答しやすい選択肢とするなど、工夫を凝らしていきたい。